

第30回アクラスZOOM寺子屋「感想」

日本語初級レベルや入門レベルでも、漫才のネタが作れることを学びました。今後授業に導入します。漫才のネタ作りもわかりやすく教えてください、ありがとうございます。

マヌーさんが漫才という「概念」を広める、とおっしゃったのが新鮮でした。笑いのツボが違うという壁も超えて、お互いにすべてを笑いに変換できる世の中になったら、諍いなんて起きようが無いのになぁと思います。素晴らしい活動をこれからも応援したいですし、自分の活動にも活かしていきたいです。

フランポネのお二方、楽しい講座をありがとうございました。併せて、貴重な機会を設けていただいた嶋田先生に御礼申し上げます。

最後の感想でも申し上げましたが、学生のちょっとした言い間違いや予期せぬ誤用は「日本語教育あるある」で、日ごろから経験しているところです。それをそのままにせず、漫才として活用していけば、学生の日本語力を付けていくうえでも、教員の授業を充実させていくうえでも、とても有効だと実感しました。実演された漫才は授業材料の宝庫だし、私自身の体験も活用できそうです。早速明日からの授業に生かしたいと思います。

また、地域により国により学生の「ノリ」が違うというお話しも、いつも感じているところです。今日の講座を聞きながら、ブラジル人の女子学生に授業中のつまみ食いを注意した時の反応（目を丸くして大げさに両手を広げ、芝居ががった声で「分かりました」と言う）を思い出し、つい笑ってしまいました。マヌーさんが日本語教育の現場や教育の現状を分析なさっているとともに、広く社会貢献を視野に入れていらっしゃるということにも感銘を受けました。一つだけ要望を言えば、シラちゃんの生の声をもう少しお伺いできれば、なお良かったです。

楽しい講座をありがとうございました。機会があれば、またお話をお伺いしたく思います。

10分で自分たちで漫才ネタを作るなんて絶対無理！と思っておりましたが、複数で知恵を出し合えばどうにか形になり、うれしくなりました。漫才のネタに日本語学習者の間違いが使えるというのは、間違いに対して否定的になりがちなクラスを楽しく和やかにかえられると思います。明日から楽しいクラスができるとうれしいのですが、学習者の間違いに温かい目ををむけることから始めたいと思います。本日はこのような機会を設けていただき、ありがとうございました。

漫才を、単に見て面白がるのではなく、「自らやって楽しむ」という点、日本語教育に限らず様々な現場で有意義な活動になると感じました。参加者の創造性を刺激する活動であることも魅力で、ぜひ実践したいと思います。ありがとうございました。

漫才を見るのは大好きですが、まさか自分が漫才をする日が来るとは思いもよりませんでした。

以前豊橋にいらした時に、用事があり、参加することができなかったため、

ずっと気になっていたところ、今回嶋田先生の寺子屋で参加することができました。

今日をきっかけに学習者の言い間違いをメモで記録を取って、自分でも参考例をストックしていこうと思いました。

今日は本当にありがとうございました。

楽しかったです。すぐにでも応用が効きそうで、実践的でありがたい内容でした。わたしが実践してもいいのですが、わたしの教室に、フランポネさんに来ていただきたいと思いました。働いているところは英語ベースの工学部なので、日本にいてもそれほど日本語が必要と思わず、学校でも寮でも英語のできる人とばかり話している学生たちは、日本語楽しいな、と思わないと、単位や試験のためという義務感だけではなかなか上達しません。わたしも単位で釣るのは嫌です。なので、いつもどうにかして楽しい授業にしようとネタを探しているところ、まさしく「お笑い」。ちょっと予想外でした。また、初級者でもできる、というところがいいです。間違いを恐れず、笑いに变えて、どんどん発話していける楽しい教室にできるいい方法なので、と思いました。このような機会を与えてくださって、嶋田先生はじめ、アクラス研究所の皆様へ感謝しております。実は、今回はじめて「寺子屋」に参加させていただきました。メールマガジンを拝読しており、今までも「寺子屋」に興味があったのですが、普段なかなか忙しくて、気持ちに余裕がなく、今回丁度水曜日に最後の授業（テスト）が終わったところだったので申し込みをしたら、今度は丸つけに集中して大遅刻となりました。申し訳ありませんでした。遅く入ったにも関わらず、グループの先生方が親切にしてくださって、感謝しています。他の先生方もお人柄の良さそうな、素敵な方々でした。また、参加したいです。ありがとうございました。

最後に感想を発表したとき、複数回この「日本語教育×お笑い」講座に参加したことのある方がいるのも納得できます。決まった形で名前を言う日本語初級1課のタスクにあたるコンビ名の発表からドギマギしましたが、マナーさんが必ず肯定的に講評してくださって、ああ、これだ!と思いました。日本語教師なら誰しも体験のある学生の発表、フィードバックと同じです。たくさん例を示してくださいましたが、ブレークアウトの話し合いはいろいろな意見、立場の方がいて、対話をしながら手探りでした。しかし、次のお笑いネタのころは、少し楽しむ余裕もできました。

「ど〜も」で始まり、「なんでやねん」「もうええわ」で終わる形式であれば、できそうと思わせてしまうところもいいなと思いました。これも日本語の授業の満足感や達成感に通じることでした。

お笑いとか、漫才のネタの中には、差別感をあおったり、失敗をひやかしたりすることで笑いを取るようなイメージもあったのですが、学習者が間違っただけにより新しい表現や語彙を習得するというところに当事者自身が気がついたり、日本人との話しに気づきがあったりして、自分たちのネタにできたらいいと思いました。シラちゃんがどのように「漫才」を通して日本語が上手になっていったかといったことも興味があります。

そして、社会問題を解決することを一つの柱にしていることも素晴らしいと思います。日本語を使って、社会の中で活動する、対話する、問題を解決するなど、日本語教育の中でも、大切にしていかなければならないことだと思えます。

生徒の気持ちで作り方を聞いて発表するドキドキまで体験できたことや、わかりやすく段取りや例をたくさんきかせていただけたこと、どれもとてもいい時間になりました。数年前にお話を聞いたときは障がいや特性のある子どもへの展開等は始まっていなかったんじゃないかと思うので、お二人の活動の広がりにも感動しました。本当にいいものはいろいろなところに広がっていくんだなと思いました。授業の時間配分の例も聞けたことでイメージができました。資料もいただけるなんて本当にありがたいです。貴重な時間でした。ありがとうございました。

この活動の存在は、これまでもさまざまな場で目にしてきました。
でも、まさか自分がご一緒して挑戦するチャンスにいただけるとは……!
という気持ちで、今回参加させていただきました。

一緒にコントを作成した先生方のスキルがとても高く、
おかげさまで、BORでの練習も発表に間に合う形で仕上げることができました。
また、「お笑い」という最初から心が開きやすいテーマだからこそ、
鎧を脱いで、ずっと活動に入れたのかもしれない。

現在、海外の大学生向けにアウトプット中心の授業も担当しているのですが、
学習者の方の協働の様子やリフレクションの深さを見つめる際、
BOR内での活動の進め方については「協働できているか」くらいの視点で
とどまっていたことに気づきました。でも今回、自分が当事者となって取り組んだことで、
限られた時間や相手との違いがあるなかで、違いの調整・落とし所・完成のラインを
どこにするかさという個々の要素にももう少し注目すべきなのだと気づきました。

笑いに関しては、「川柳」に夢中で取り組んでいた時期がありました。
川柳は、ひとりでひねり出して形を整え、完成後に誰かと共有するスタイルなので、
今回のように「作りながら一緒に笑いを生み出していく」体験は、
まったく異なるスタイルでの“共有”がある協働なのだなど、改めて感じました。

普段は苦手意識があった「掛け合い」も、今までと異なる視点で捉えられたことが、
とてもうれしかったです。
今回も、参加できて本当によかったです。ありがとうございました。

- ①なんといっても、めちゃくちゃおもしろかったです。出会えてほんまによかったです。フランボネさん。常に視野を広げてくださる嶋田先生。ありがとうございました。
- ②1番の収穫は、学習者さんの「間違い」を、忌むべきものではなく、「笑いを伴った次の学びにつなげることができる」という視点です。そこには、「寛容と工夫」「ともに創っていく楽しさ」があります。
- ③私は現在、スケジュールが全部決まっている日本語学校に勤務していますので、このままを授業の中でやっていくことはむずかしいですが、エッセンスをさっそく取り入れていこうと思います。

フランポネさんのお話、最初に自分も漫才をつくって披露すると聞いたときは「どうしよう！」と思いましたが、皆さんと楽しくできました。グループに分かれての話し合いで、日本語の先生たちが、どうしたら学生に楽しく学んでもらえるかを真剣に考え、愛情を持って留学生たちに接していらっしゃるのがわかり、とても嬉しかったです。参議院議員選挙で排外主義を掲げる政党が大躍進したことに暗澹たる気持ちでいましたので、皆さんと出会えて一時救われました。

漫才の「ぼけ」と「おち」を考えながら日本語を並べる勉強は楽しかったです。ついつい、学生（外国人）の日本語の言い間違いを、くすっ、と笑える程度で済ませてしまいがちですが、笑いをあえて取り上げ、学習につなげることもできるのだと感心しました。外国人の方々に、お笑いという日本文化を知ってもらう機会にもなると思いました。

フランポネさんのレッスンでは、参加者の笑顔の輪が、ひろがりゆくことを体感いたしました。レッスン内容も素晴らしい構成・内容だと感じました。扉がひらかれゆくイメージを持ち、外国人と日本人のいる教室で、今日から実践の予定です。参加者の笑顔の輪がひろがるかな？

フランポネさん、いつか、どこかの道で、またお目にかかれそうです、楽しみにしております。この度は、ありがとうございました。

嶋田先生の寺小屋にて、乾杯♪～

フランポネのマヌー島岡さんの、ご自身の漫才事業の意義に関する説明に感銘を受けました。分かりやすく、考え抜かれた言葉で伝えてくださいました。さらに、様々な研修や授業でどのように漫才を説明し、進行されているか、惜しみなく見せていただいたことにも厚く感謝申し上げます。お二人のご活躍と、その事業のご成功を祈っております。今回、お二人にいただいた爪の垢を煎じつつ、自分のクラスに還元できるよう精進してまいります。

この度は、急遽参加させていただきありがとうございました。どのように授業に活かせるか考えながらワークに取り組み、その時間が楽しくあっという間でした。みなさんからもあったように、学生の間違いや、苦手がポジティブな笑いに変えられるのが魅力だと思います。講師のお二人、一緒にワークをした皆様に改めて感謝申し上げます。

間違いやミスを肯定的にとらえるというのが素敵だと思います。上級学習者向けだと思っていたら初心者でも3行だけでも漫才になるんだと目から鱗でした。チームでの実践も楽しい経験でした。また、フランポネさんの活動がソーシャルビジネスとして展開されているというのもいいなと思いました。教育の場では利益を追求することが忌み嫌われがちですが、人の好意ややる気に頼ってはい持続可能性が低くなると思います。経済ベースで成り立ってこそ社会に浸透していき支援につながると思うので、「漫才で覚える外国語」の今後の発展を楽しみにしております。

大変楽しい時間をありがとうございました。実際に漫才を作ってみる、という課題を伺った時はどうしようどうしようと不安しかありませんでしたが、わかりやすく手順をご説明くださいましたので、かなりハードルが下がり、なんとか作ることができました。マヌーさんが、漫才を作るにあたってのノウハウ、アイデアを惜しみなくご披露くださいましたので、いつか漫才の授業をするその時が来ても、お笑いのセンスのない私でもなんとかかなるかなという希望を持つことができました。ぜひやってみたい！みんなとこの楽しさを共有したい！と思いました。また、フランポネさんたちの「お笑いで社会問題を解決する」「笑いで世界を変える」というそのお考えにとっても感動いたしました。自分は何ができるかわかりませんが、それでも、私も日々「笑い」を大切にしていきたいとあらためて思いました。

長年授業で落語やコント、漫才を扱っておりますが、今回のアプローチの仕方は学生、参加者を巻き込みかたがユニークで効果的だと思いました。お話し、資料を参考にさせていただき、授業やボランティア活動で生かしたいと思います。ありがとうございました。

実は最近の日本のお笑いが苦手で、関西弁も嫌いで、人の頭を叩いたり電気ビリビリに喜ぶシーンにはテレビを消す私です。こんな懐疑的な私に、お笑いの要素を取り入れた日本語の授業などできるのだろうかと思ったのですが、カチカチ頭を粉々に砕いてみようかと、今回の寺子屋に申し込みました。そうしたら突然のブレイクアウトで漫才作る発言に最初は慄きましたが、お二人の掛け合いも素直に面白かったですし、「あ、これなら私にもできるかも...」と思うことができました。この話を校長にしたら、校長も乗り気になり、さっそく来週、漫才の授業をするスケジュールを組みました。上手にできた人は、8/16に行われる成田市の国際交流イベントで発表予定です。お二人が私の頭を柔らかくして、私に明るい未来を見せてくださったように、私も学生達に楽しさを伝授できたらと気を引き締めつつ、私も一緒に楽しみたいです。

お笑いを授業に取り入れるという発想にとても感銘を受けました。私は関西なのですが、神戸生まれ神戸育ちなためかどうも大阪の「ノリ-ツッコミ」がうまくできず(分からず)困ることもあるのですが、今回のお話で一筋光明が見えた気がしました。「話してみる」ことの一つの形として、ぜひ自分の授業に取り入れてみたいと考えています。本当にありがとうございました！

スタートからドタバタで申し訳ございませんでした。嶋田先生の寺子屋に初めて参加させていただきまして。ありがとうございます。

漫才...とても参考になりました。

異文化交流で取り入れたいと思います。

楽しかったです。

漫才を日本語の授業には想像もできませんでした。

今後も参加したいと思います。

ありがとうございました。

初めての参加でした。お世話になりました。少々手順が分からず緊張状態での参加でした。とても良い時間を過ごさせていただきました。漫才というのにほとんど関心がなかったのですが関西のテンポというのに初めて触れました。語学習得にテンポという要素がとてもいい役割をしていることを今回感じました。学習者が理解できるまでじっくり時間をかけるという方法もありますが、初心者にとってはテンポよく言葉のキャッチボールを楽しむ時間は必要かもしれません。日本語の能力がバラバラなクラスで利用してみたくくなりました。

また参加させてください。

漫才なんてやったことがなかった私が「体験」の大切さを再認識する時間になりました。できるかなという不安な気持ちから型にはめていけば、「できた！」という達成感、そしてこれはまさに私たちの学生が「体験」していることの疑似体験でした。日本で漫才師になりたいと言っていたかつての教え子にも受けて欲しい授業です。マヌー島岡さん&シラちゃん、嶋田先生、素敵な機会をありがとうございました！！